

# 聖マリア国際協力ニュース

第98号

平成20年10月1日発行

## JICA 集団研修「病院経営・財務管理」コース開始

国際協力部 矢山進一

9月22日より2008年度JICA集団研修「病院経営・財務管理」コースがスタートしました。これまでに106名(53カ国)の方が当コースを修了していますが、開設して14回目を迎える今回は11カ国11名と近年に多く多くの研修員が参加しています。

このコースでは、日本全体の医療保険制度から病院の中での具体的な活動まで、見学や講義だけでなく演習を交えて理解いただくようにカリキュラムを作成しております。

コースが修了する11月14日までの期間中、多くの職員の皆様には院内講師をお願いしたり、あるいは現場見学に対応していただいたり、いろいろな形でご協力をいただくこととなります。日々の業務で忙しい中、たいへん恐縮なのですが、研修員が聖マリア病院で学んだことが、それぞれの母国における病院や保健医療制度の改善に繋がる可能性も大いにあります。このことを念頭に置いて、丁寧なご指導を心がけてくだされば幸いです。

また研修期間中には研修員と職員の交流会を数回開催いたします。病院職員との交流会は10月6日(月)と11月4日(火)の2回、また聖マリア学院学生との交流会は10月28日(火)にそれぞれ開催を予定しています。国際協力活動に興味をお持ちの方はこの機会にぜひご参加ください。(交流会の詳細については別途ご案内いたします。)



来日した研修員。前列左よりヘンリーさん(ウガンダ)、カダンガさん(トーゴ)。後列左よりトツイさん(カンボジア)、ウェインさん(ラオス)、サンティルさん(南アフリカ)、サマンさん(スリランカ)、モハメドさん(エジプト)、シュさん(中国)、ライウさん(マダガスカル)、ジョセフさん(リベリア)、チャンさん(ベトナム)



## 長崎研修旅行(韓国CMC研修)に同行して



爆心地で原爆の説明を受ける研修生

平成20年8月23日、韓国からの研修生8名と共に長崎研修へ行って来ました。前日、交流会で、片言の韓国語で自己紹介をし、長崎へ同行する事も伝えていましたが、どうなることかとドキドキして、一日が始まりました。

前日より雨天で、当日も午前中は雨との予報でしたが、時折日が射す程のお天気で傘の出番もあまりなく過ぎました。8時30分に出発し、まずは長崎原爆資料館へ。何度来ても原爆、戦争の恐ろしさ、無惨さに胸が締めつけられ平和を祈らずにはいられない気持ちで一杯になりました。研修生の皆さんもきつと、同じ思いで見学されたと思います。

次に平和公園、日本二十六聖人殉職地と巡り、昼食は、長崎名物チャンポン、皿うどん等のコースでした。ある研修生が「これは特別な料理です」と言われ、どういう事かと思って話を聞くと、皿うどんが初めてだったそうです。他の方達も揚げ麺に具をかける(麺と具が別々に運ばれてきた)食べ方が説明を聞いても分からないように、単品で食べる方もいましたが、最後には皆さん「マシッソヨ!」(美味しい!)。でも「キムチが

あればもっとおいしかった」とも言われました。やはりキムチは欠かせないようです。

午後は大浦天主堂へ、ここでは自然にあちこちの椅子に座り、しばらくの間それぞれのスタイルで祈りを捧げられ、次はコルベ神父記念室へ。コルベ神父の大きなパネルの前で皆さん記念撮影をされ、その後グラバー園の参道でおみやげの買い物を楽しんでから帰路につきました。

研修生の方々にとって有意義な一日になったことと思います。しかし残念だったのは、せっかく韓国語を話せるチャンスをいただいたのに、なかなか積極的になれず、思うようにコミュニケーションがとれなかった事、また通訳の田田さんに頼りがちになってしまった事です。でも今回の旅行をきっかけに、これから韓国語の勉強を頑張ろうと決心しました。このような機会を与えていただき有り難うございました。



平和公園にて全員で記念写真

## ボリビア地域保健システム向上フォローアップ派遣報告

東京連絡事務所 磯東一郎

2008年8月19日より9月5日までの18日間、JICAの派遣により南米ボリビアの第2の都市サンタクルスに派遣された。目的は、2001年から2006年まで実施されたJICAボリビア国サンタクルス県地域保健ネットワーク強化プロジェクトの成果の普及拡大を目的とした当国保健機関によるプロジェクトの活動支援である。担当分野は、患者搬送システム含めリファラルシステム(診療所と病院との連携システム)強化と前プロジェクトで一次医療施設管理及びその管轄事務所に導入した財務管理システム(患者会計・経理・物品管理・薬剤管理)の導入拡大である。

まず財務管理システムについてであるが、これには12年ほどの歴史がある。前プロジェクトで使用した財務管理システムは、そもそも1995年から5年間実施されたサンタクルス日本病院プロジェクトに派遣されていた時に、WHOから供与された医療施設用財務管理システムの導入を試みたがうまく機能せず、国際協力部の杉本次長の協力を得て、大幅にシステムのデザインを修正しバージョンアップしたものをWHOに再供与したシステムがその原型となっている。その後、2003年に同システムはスペインの大手国際NGO団体により、MS-Windows対応にバージョンアップされ、診療情報システムなどをリンクされた。現在ボリビア保健省指定病院財務管理システムとして、全国の主要病院に導入されている。前プロジェクトではこれを更に小規模診療所に修正を加え、診療所並びに診療所を管轄する保健管区事務所10箇所に導入した。現在、診療所を管理するサンタクルス市役所は、すべての診療所に導入するという計画でパソコンを購入している。筆者は、その導入推進について、使用によるメリット・デメリットをまとめ「人・物・金」について、助言、指導を行った。もうひとつのリファラルシステムは、保健システムの中



視察のため訪れた救急隊事務所にて

で機能するサブシステムである。ただ単に患者の紹介、逆紹介のみをシステム化しても各レベルの医療機関が必要とされる働きをしなくては機能しない。そこで、前プロジェクトでは、まず第一にリファラルシステムにおける問題点を明らかにし、医療システム全体の枠組みの中で、ボリビアの保健基準に沿って診療所と病院の役割・機能を定めた。次にその体制作りのため市保健局の尻を叩きまくり、更に政治的な支援を得るため、市長並びに市議会議員に「医療施設の充実と救急システムの整備は住民へのアピールが大である!」と事あるごとに売り込んだ。その甲斐あってか、前プロジェクト終了から1年半を経過した現在、病院・診療所は増築され、診療機材も充実し、予算執行の効率化による薬品揃も非常に良くなっていった。これには大変驚いた。さすがやり手の政治家は動きが早い。また救急搬送システムも、当時は20名の職員とボランティアによってポンコツ救急車5台で賄っていたが、現在は隊長以下34名の職員に新車3台を加え、常時救急車4台を稼働させ機能していた。しかし、この成果は当然のことながら私の技術協力の成果ではなく、彼ら自身の努力に他ならない。しかし、行政の尻を叩きと政治家への宣伝効果の売り込み作戦は、少しは役に立ったのではと思っている。

## 韓国カトリック大学校江南聖母病院のビザ身体検査室

国際協力部 高和珍

韓国カトリック大学校江南聖母病院での研修が始まり約3ヶ月が経ちます。現在は院務チームで研修を受けています。院務チームとは入院患者の手続や入院患者の管理、保険資格の管理、自動車保険・労災関係の業務など、聖マリア病院で言えば入院医事課と公費医事科に当たる業務をしています。その中で聖マリア病院では行っていない業務がありましたので、皆様にご紹介したいと思います。

国内・海外に対して病院のイメージ向上および収入増を図る目的で設置された「ビザ身体検査室」は院務チームの中に所属しています。身検(身体検査)の指定病院として承認を受けるには、まず病院紹介の文書と英文申請書を各国外使館に提出し、その後、移民官が病院施設を訪問審査します。その結果、合格であれば指定病院の承認を受けることとなります。現在、江南聖母病院を指定病院として承認している国はニュージーランド・オーストラリア・フィリピンの3ヶ国です。



ビザ身体検査室の職員たちと

2001年から実施した江南聖母病院のビザ身体検査室には毎日約30名前後の顧客が訪れ、非常に賑わっています。身体検査を受けた人全てが外国に行くわけではないですが、1ヶ月に約600名が身体検査を受けるのを見て正直驚きました。オーストラリアでは現在労働者が不足していることもあり、20~30代を中心にワーキングホリデービザの取得を希望する人が増えていると聞きましたが、その影響もかもしれません。

日本にもいくつか指定病院があるということを知り、調べてみたところ、オーストラリア大使館指定病院は福岡県の2施設を含め、全国に21施設あるようです。院務チームの中にビザ身体検査室が所属しているのが少し不思議ではありますが、病院の増収に貢献しており、また顧客満足度も高い部門です。

### 【研修受入】

・10月23日(木)  
韓国カトリック医療協会の順天 SAINT CAROLLO 病院より医師、看護師、管理部長が病院見学のため来院。

### 【その他】

・10月20日(月)~10月26日(日)  
インドネシア国スタディーツアー実施。  
参加者は堤礼、梶原早百合、三澤典子(以上看護師)、井手めぐみ(臨床検査技師)の4名。

### 今月の動き

